



数見道場館長

# 数見 肇

## 極真史上、外国人に初めて王座を奪われた！ 数見肇にとつて、 世界大会敗北は恥だったのか!?

聞き手／谷川眞治 写真／小林善夫

自分にとっての恥は「自分に負けること」

谷川 数見さん、本当にお久しぶりです。今日は数見さんと久しぶりに話せることで、すごく楽しみにしていました。

数見 こうやってお話するのは15年ぶりぐらいですかね？

谷川 僕はみんなが知っているほどの極真好きなんですけど、今思えば競技としての極真に本当に熱くなれたのは、松井（章圭）館長が優勝した第4回世界大会から数見さんが決勝で初めて外国人に王座を取られた第7回世界大会くらいなんです。その頃は雑誌もやってましたからね。数見さん、いくつになりました？

数見 44歳になりました。

谷川 もうそんな歳ですか？ 桜庭選手や田村選手と同年

現代の格闘家、武道家にとつての「恥」とは何か？  
かつて大山倍達から「日本人が王座を奪われたら、腹を切れ!」と言われていた極真世界大会で、初めて外国人に王座を奪われたサムライ数見肇に、16年の歳月を経て、その思いを聞いてみた。極真史上に残る名勝負の当事者は何を思うのか――。

代か……。フランシスコ・フィリオ選手と世界大会の決勝で闘ったのは？

数見 あれは1999年なので27歳のときですね。

谷川 そんなに経つんですね。実は数見さんの世代が引退された後の極真の選手ってあまり知らないんですよ。ちょっと現場から離れちゃってて。

数見 あの頃は谷川さんがやられてたテレビや雑誌で、よく自分たちを取り上げてくれてましたからね。今は何をされてるんですか？

谷川 僕は今、「巖流島」という新しい格闘技イベントをやっているんです。

数見 谷川さんがやられてるんですか？

谷川 まあ、そうですね。ネットやテレビを通してファンや関係者と議論を重ねて、皆でプロジェクトを形にしてい